

令和2年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	児童生徒指導部会		部 会
2 研究所員 ◆：代表者	◆上野 知哉 ・松本 菜月 ・渡辺 裕太郎	・生井 沙織 ・長島 裕志	事務所員 ・篠崎 智延 ・高瀬 智行



3 研究テーマ

不登校の児童生徒への支援と関わり方

4 研究の取組

(1) 研究内容

- コロナウィルス感染症による臨時休校の影響によって、新規の不登校児童生徒が増えた学校がある。
  - ・遅れを取り戻そうとする早い学習に、着いていけない児童がいる。
  - ・児童と教員、また児童同士の交流を図る機会が十分に確保されていない。
  - 学習に自信がもてず、人間関係を育む時間ももてず、不登校が増えてしまっている可能性がある。
- 各校の不登校事例
  - ・各校の不登校事例をまとめ、報告する。
  - ・各校の不登校への対応の仕方をまとめる。
  - どのような対応が不登校を改善させたのかを報告し合い、研究に生かす。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
8月12日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	12月1日	各校の不登校児童生徒対応事例をまとめ、報告する。
10月2日	授業の中でコミュニケーションを図る工夫を実践し、報告する。	2月19日	各校の不登校の改善事例と対応をまとめ、報告する。
		2年次経過報告提出	

5 研究の成果と課題

- 【成果】
- ・各校の不登校事例の報告
    - 様々な要因が複雑に絡み合って不登校になっているケースが報告された。その中で、家庭の支援も重要であることがわかった。
  - ・各校の実践事例と不登校改善事例の報告
    - 授業内で意図的に児童・生徒同士が関わり合う時間をもたせる。
    - 継続的な支援や特別活動が不登校改善のきっかけになり得ることが分かった。
    - 外部機関の専門家の意見を聞き、児童・生徒の特性を理解して接し、改善に向かわせていく。
- 【課題】
- ・これまでの研究を基に、不登校を出さないために学校できる支援策や不登校を改善させるための手立てを整理し、実践・検証することが必要である。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- <次年度の構想>
- ・研究の成果を生かし、不登校を出さないための支援や不登校児童生徒を改善するための支援について実践・検証していく。
  - ・1年目、2年目に行った活動から、各校の実践事例をまとめていく。